

技術者評価を重視した選定(試行) に関する報告

1. 技術者評価を重視した選定の概要
2. 試行の実施状況・結果
 - ①入札の競争性・占有率
 - ②落札者の技術点・価格点順位
 - ③入札率・落札率の分布
 - ④工種別業務成績評定点
 - ⑤評価点1・2位差分布
 - ⑥受発注者アンケート調査結果(概要)
 - ⑦試行実施・非実施の両方を発注した者への聞取結果(概要)
3. 総合評価落札方式の現状と今後の方向性

1. 技術者評価を重視した選定の概要

課題認識

- 1) 総合評価落札方式の標準型(1:2、1:3)の業務は、評価テーマに関する技術提案の作成や技術提案の審査とりまとめなど、受注者、発注者双方ともに、負担感が大きい。
- 2) 過去の技術者の成績は、当該業務成績に概ね比例しており、信頼性が高い指標といえるが、現在は、評価ウエイトが小さく、非効率ではないか。

試行内容

「評価テーマに代えて、技術者の過去の成績と実施方針に重点配分」の試行を実施(H26.6.16公示案件から)。

○対象工種:河川事業:堤防・護岸設計

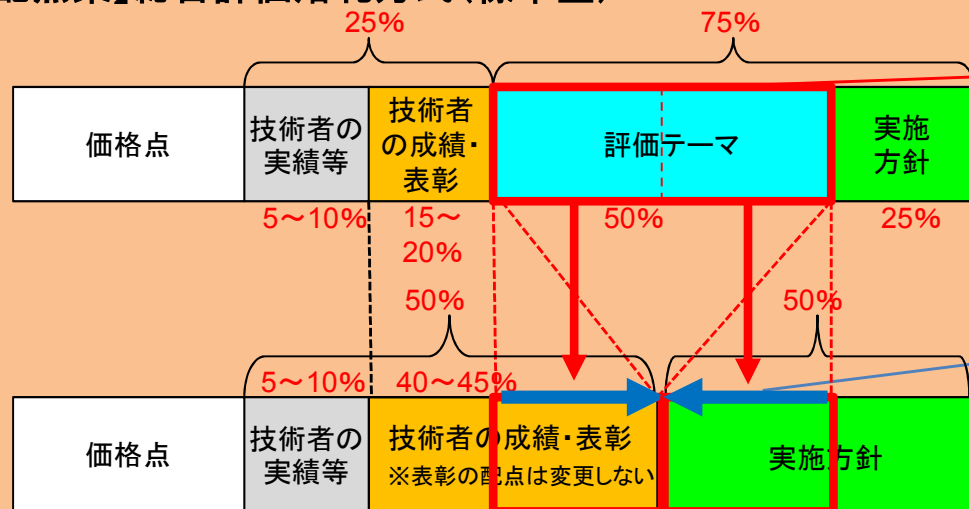
道路事業:道路予備(用地幅)、構造物予備(一般)、構造物詳細・補修設計(一般)、道路詳細(一般)

○試行規模:実施件数は、上記工種毎に2割程度

○発注方式:総合評価落札方式(1:3)

入札段階の技術評価

【配点案】総合評価落札方式(標準型)



「評価テーマ」の配点割合50%を、「技術者の成績・表彰」、「実施方針」に25%ずつ分配

ヒアリングの実施

試行業務では、入札段階の技術評価において、予定管理技術者の過去の実績や業務理解度、業務実施方針等について、配置予定管理技術者と面談し、当該業務の履行に必要な技術力の確認を行うものとする。

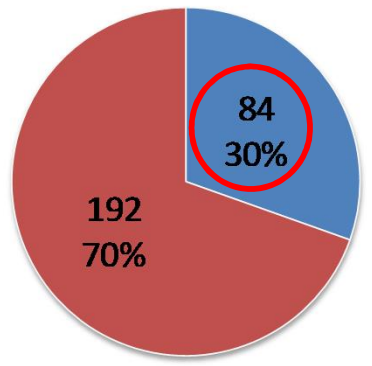
2. 試行の実施状況・結果

試行実施状況

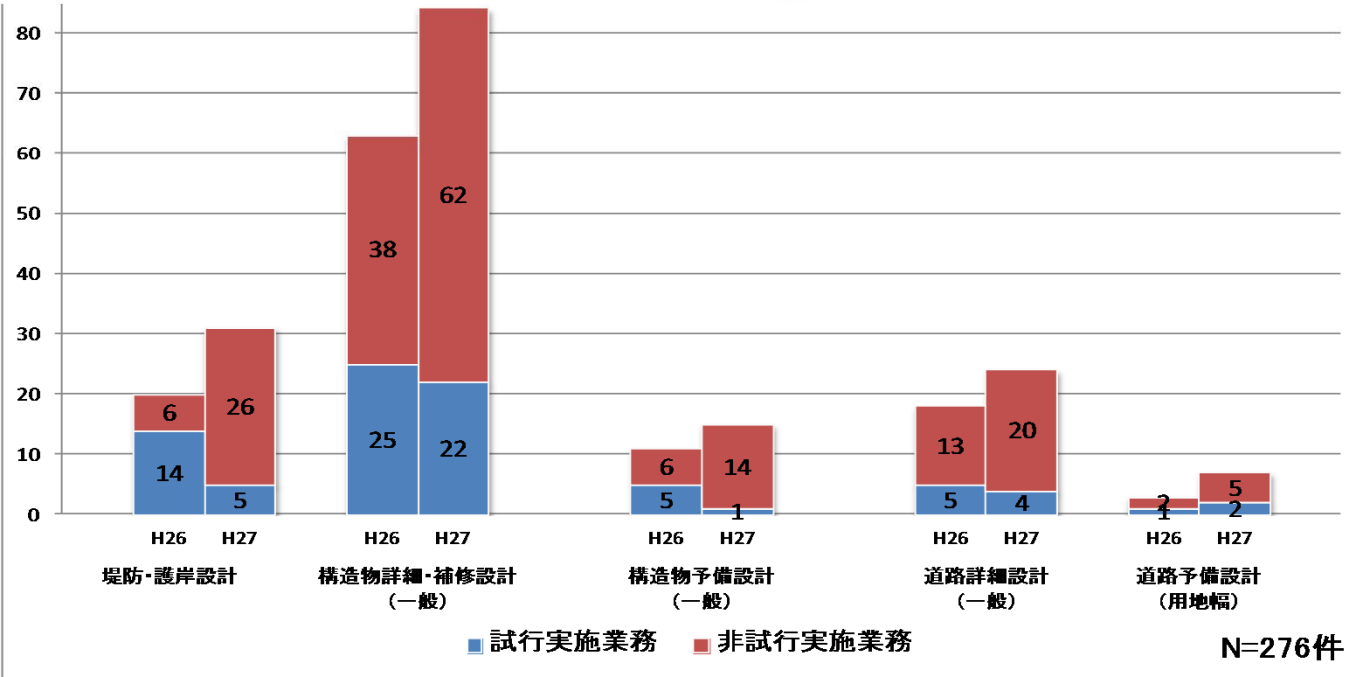
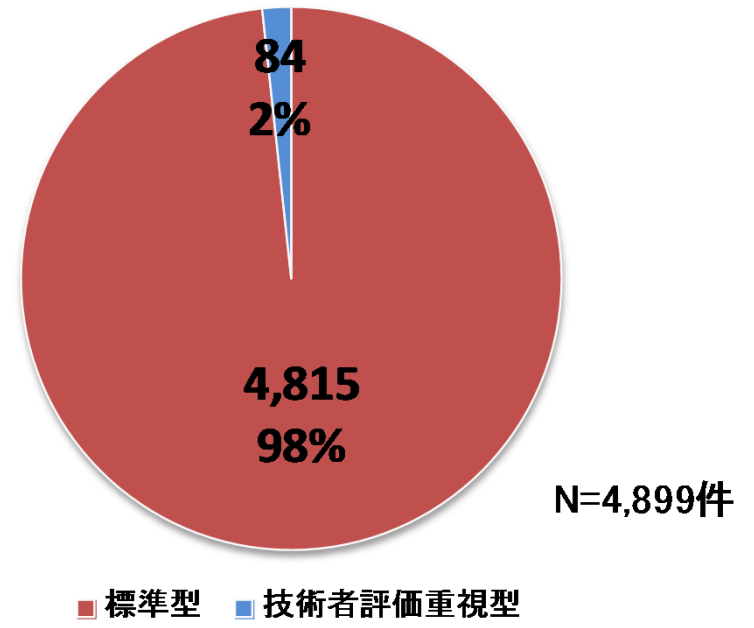
- 試行開始以降の試行対象工種の契約件数は**276件**。
- このうち試行を実施した業務は**84件**であり、試行対象工種の**3割**の業務で試行実施。
- 総合評価(標準型)全体(H26、H27合計)に占める割合は限定的。

試行2業務件数

試行対象工種における実施状況



総合評価(標準型)に占める実施割合



①入札の競争性・占有率

- 入札参加の状況については、1業務あたり入札参加者数、1業務当たりの参加表明者数とも、試行実施業務と非実施業務の間で、大きな差は見られない。
- 落札者の状況については、試行実施業務の落札上位3社占有率、入札参加上位5社占有率とも、**試行実施業務と非実施業務の間で、大きな差は見られない。**
→試行業務での入札参加・落札の特定業者へ偏りは見られない。

試行実施業務と試行非実施業務における入札参加等の傾向

	業務件数	延べ入札参加者数	1業務当りの入札参加者数	延べ参加表明者数	1業務当りの参加表明者数
試行実施業務	84	646	7.7	697	8.3
試行非実施業務	192	1,430	7.4	1,633	8.5

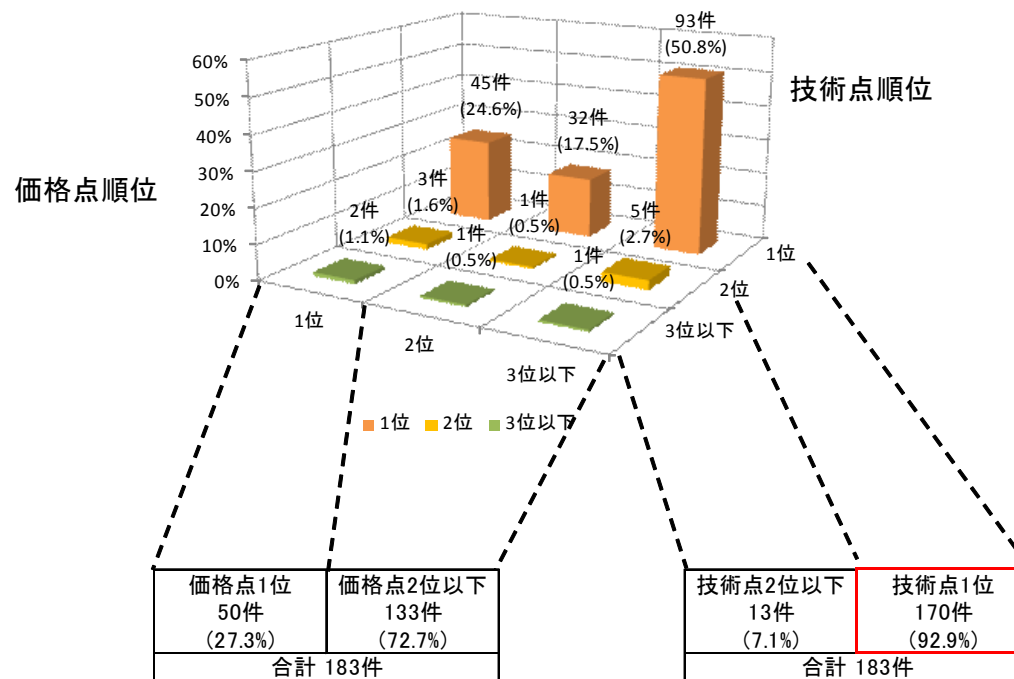
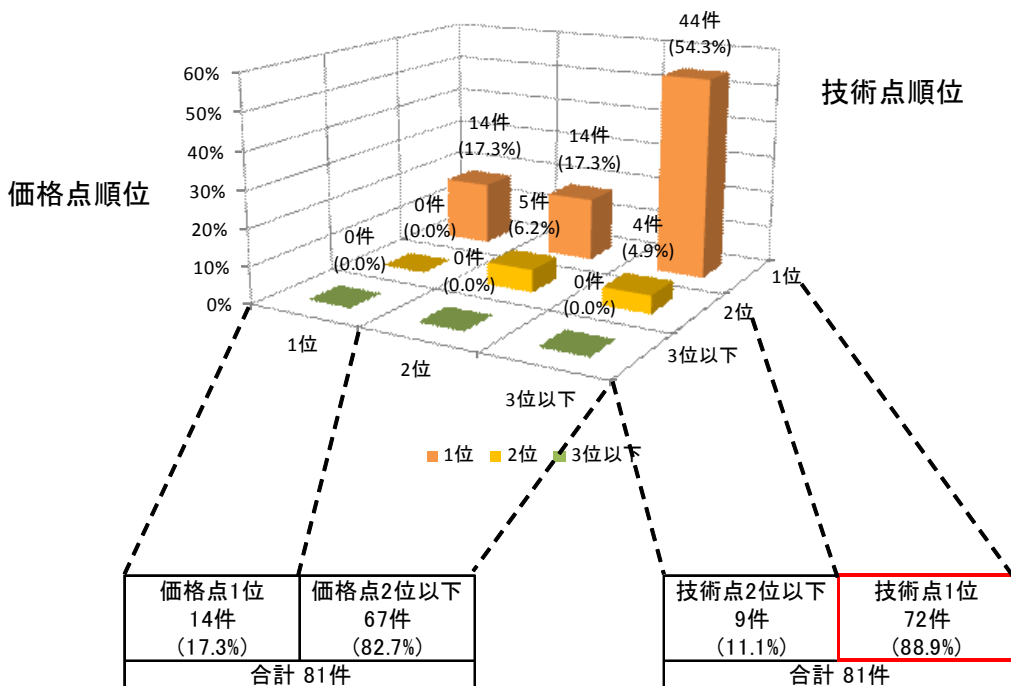
	落札件数上位3社の総落札件数	落札上位3社占有率	入札参加上位5社の延べ参加件数	入札参加上位5社占有率
試行実施業務	22	26%	169	26%
試行非実施業務	51	27%	368	26%

②落札者の技術点・価格点順位

- 技術点1位者(価格点1位者を含め)が落札した割合は、試行実施業務88.9%、非実施業務92.9%と、ともに大部分を占めた。

試行2実施業務

試行2非実施業務



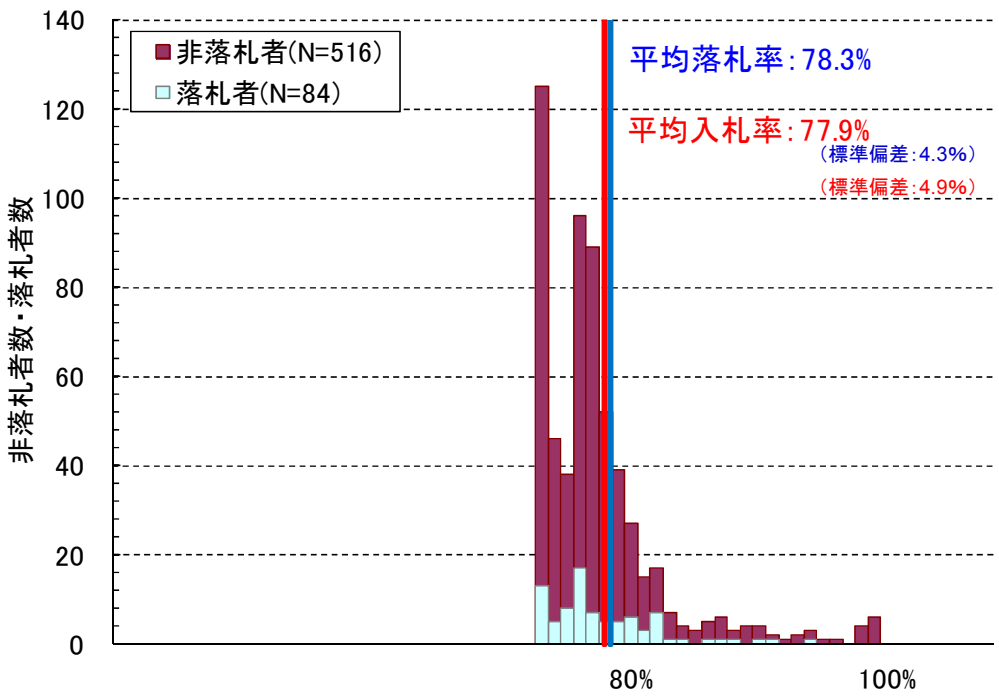
※入札参加者が1者であった業務(試行実施業務3、試行非実施業務9)を除いた。

③入札率・落札率の分布

・ 試行実施業務では、非実施業務と比較して、平均入札率、平均落札率とも大きな差はない。

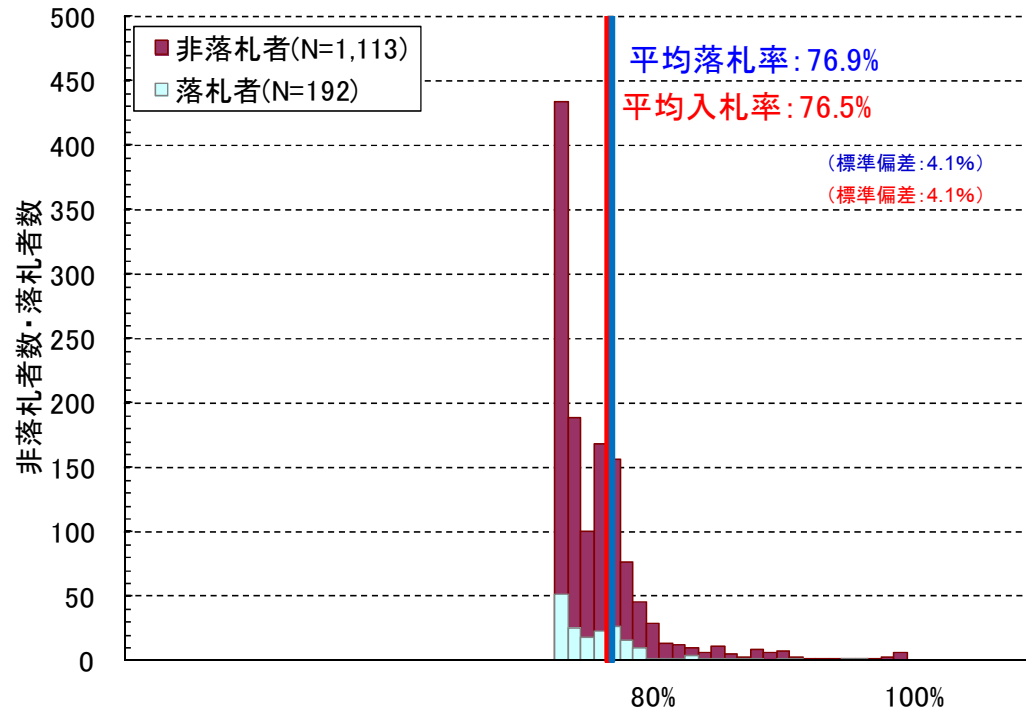
試行2実施業務

対象業務件数: 84件



試行2非実施業務

対象業務件数: 192件



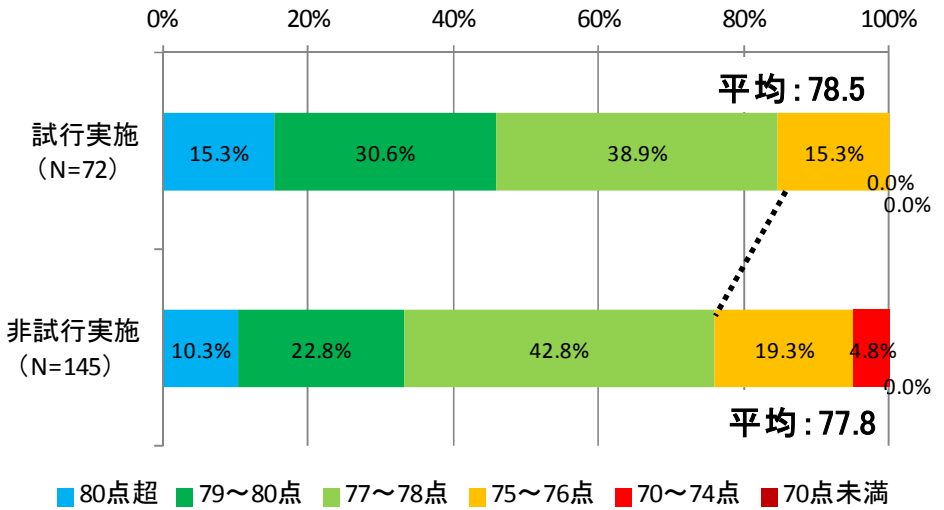
④工種別業務成績評定点

・業務成績評定点について、**大きな差は見られない。**

1. 工種別業務成績評定点平均

工種	実施件数		業務成績評定点平均	
	試行実施	非試行実施	試行実施	非試行実施
堤防・護岸設計	14	21	77.9	78.3
構造物詳細・補修設計(一般)	43	77	78.8	78.0
構造物予備設計(一般)	4	18	78.5	77.7
道路詳細設計(一般)	8	24	78.2	76.7
道路予備設計(用地幅)	3	5	77.3	77.6
合計	72	145	78.5	77.8

2. 業務成績評定点分布

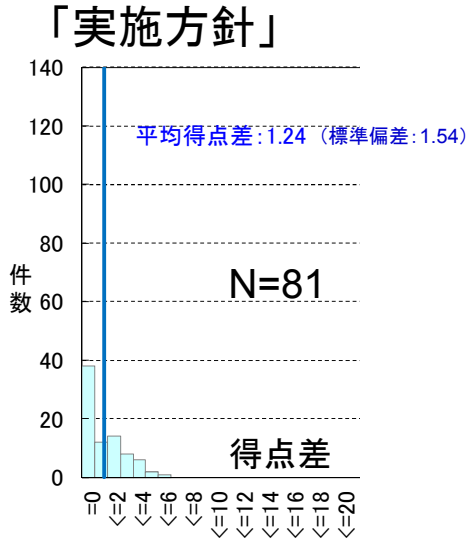
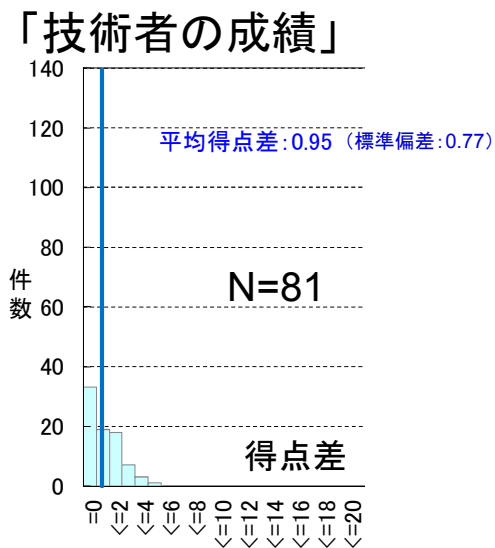


注) **H27年度内**完了業務
(他に実施中業務が59件(試行実施12、非実施47))

⑤ 評価点1・2位差分布(評価項目別技術点)

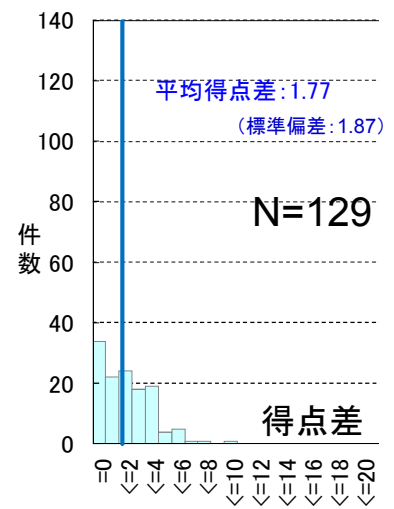
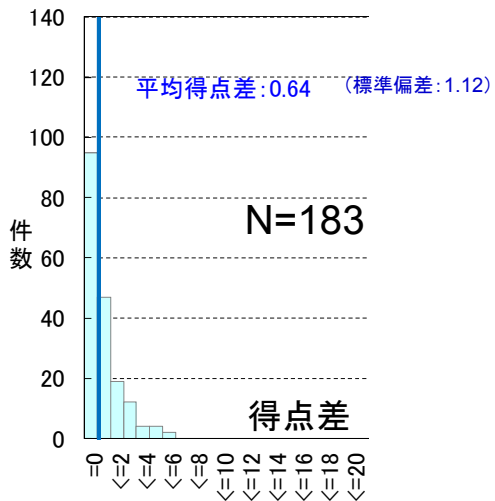
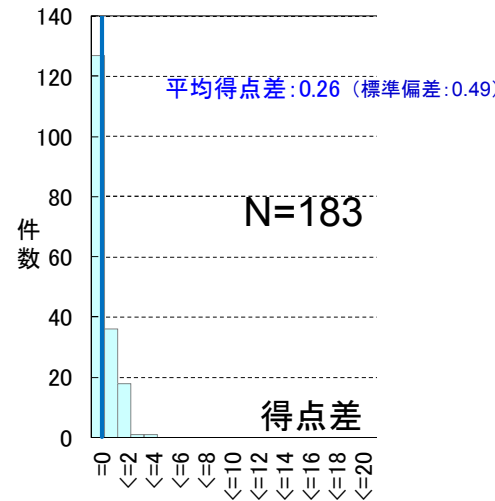
・「技術者の成績」、「実施方針」について、試行における評価方法の変更に応じて得点差が生じている。

試行
実施業務



「評価テーマ」
(試行実施業務は評価
テーマ無し)

試行
非実施業務

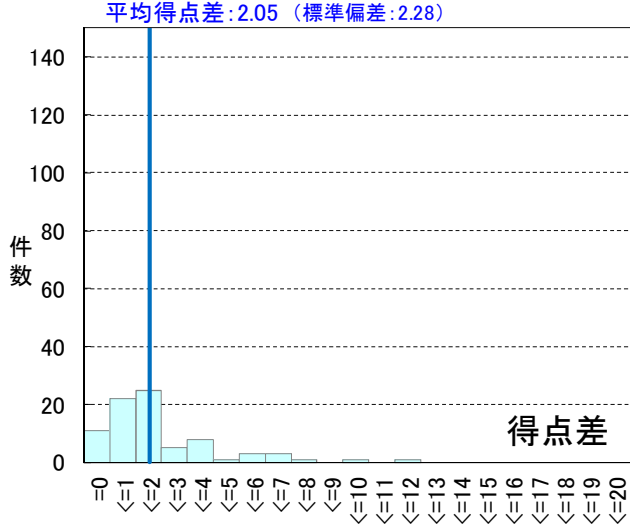


⑤ 評価点1・2位差分布(技術点・価格点)

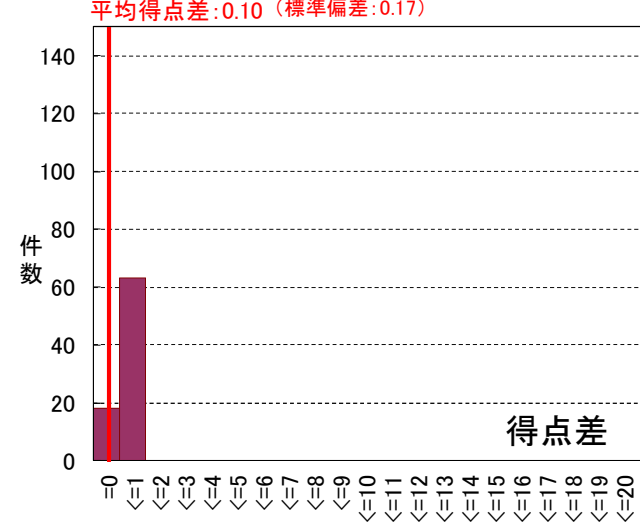
・技術点1・2位差、価格点1・2位差ともに、試行実施業務と非実施業務との間に大きな差は認められない。

試行実施業務
(N=81)

技術点1・2位差

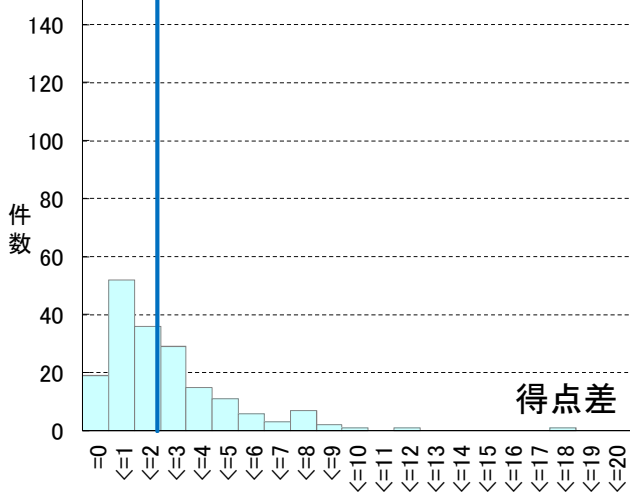


価格点1・2位差

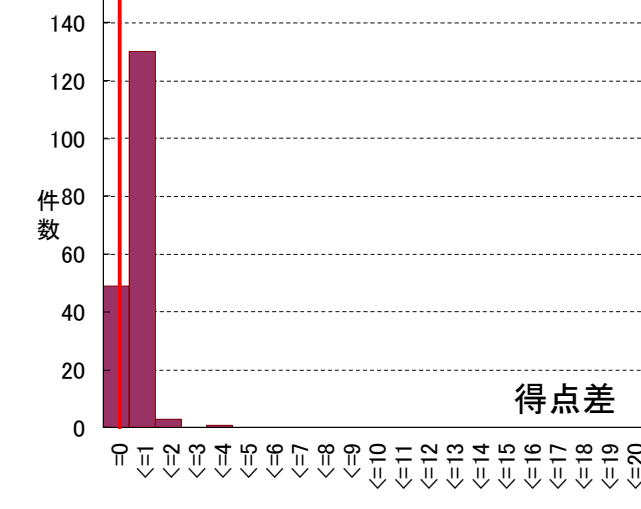


試行非実施業務
(N=183)

技術点1・2位差



価格点1・2位差

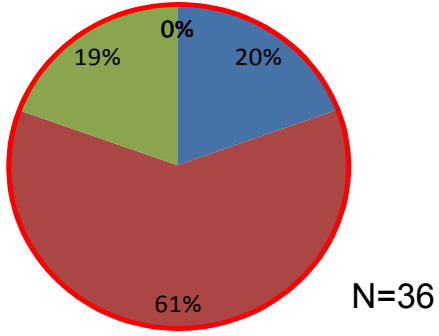


⑥受発注者アンケート調査結果(概要)

・「事務の簡素化」及び「技術力の評価」において、受発注者ともに試行への肯定的な意見が多数を占めた。
 ・自由意見で「試行の継続」に肯定的な意見があった。

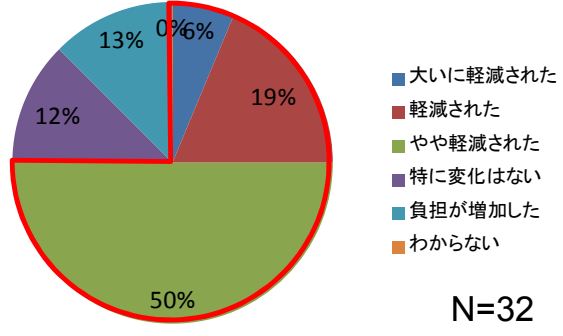
事務の簡素化

【受注者】技術提案書作成の負担



➤ 全ての受注者が技術提案書作成負担が軽減したと回答。

【発注者】入札・契約事務の負担の軽減



➤ 発注者の3/4が入札・契約事務負担が軽減したと回答。

主な自由意見

受注者

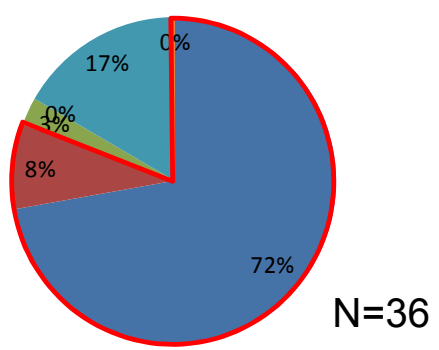
- 良い試行である。 9件
- 試行を継続してもらいたい。 3件
- 業務内容や現場特性に応じて、必要により、評価テーマの設定も必要である。 4件

発注者

- 本格導入には、業務内容等を踏まえて、柔軟に適用できるよう配慮が必要である。 2件
- ヒアリングの省略の検討も必要である。 3件

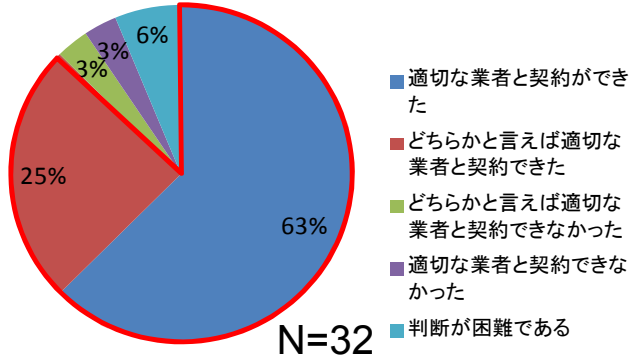
技術力の評価

【受注者】技術者の技術力の評価



➤ 受注者の約8割が技術者の技術力が評価されたと認識

【発注者】十分な技術力を有する者との契約



➤ 発注者の約9割が技術力を有する者と適切な契約ができたと回答。

⑦ 試行実施・非実施の両方を発注した者への聞取結果(概要)

試行実施業務の技術提案書の評価について(主な意見)

「予定管理技術者の過去の業務成績」について

- ・優れた者を選定する上で、一定の信頼感・安心感。

「実施方針」について

- ・不適業者を排除する意味では有効。

「評価テーマ」について

- ・今回の試行の範囲においては、「評価テーマ」を設定しなくても一定の能力を有する者を選定でき、特段の問題はなかった。
- ・「評価テーマ」を設定しないことにより発注事務の効率化に有効。

ヒアリングの実施について(主な意見)

「ヒアリング」による効果・課題等

- ・同種業務の経験に関する詳細な情報を得ることができたこと、技術者の資質が確認できたことなどの効果。
- ・「ヒアリング」には時間を要するため、負担感あり。

試行実施業務選定の考え方(主な意見)

「仕分け」について

- ・業務の内容に応じて、「技術者評価重視型」と「標準型」の使い分けを行った。

「技術者評価重視型」に適した業務

※技術者の過去の実績、経験が重視される業務

- ・調査や点検の結果の評価 (調査や点検の経験が豊富な技術者)
- ・関係機関との協議(協議時に要求される事項を熟知している技術者)
- ・地元対応などの個別の細かな事案に対する対応(多種多様な対応手法を迅速に提案できる技術者)

3. 総合評価落札方式の現状と今後の方向性

試行状況のまとめ

- 入札・落札の状況について、悪影響は見られない。
- 成果の品質について、悪影響は見られない。

➡ 試行およびその結果のモニタリングを継続する

